

# 令和7年度 伊那市立高遠中学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった)

自己(項目間相対を加味した到達度)評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
<b>学則得</b> (学び則ち得る) ○学と得は一体であり、知と行は表裏、学は徳である。自らが主体として学ぶことで全ては得られるのである。 ○実学尊重 知育・徳育・体育の調和を求め、情操のいよいよ高く深く人間存在を求める。いよいよ高さもの、いよいよ遠きものを仰望する実践の姿 “仰之愈高 望之愈遠” 之を仰げば愈々高く 之を望めば愈々遠し	「高遠の子」実践目標 ①挨拶愛語 ②清掃不言 ③花作相見 ④歌声響合
	今年度の重点目標
	(1) 求めて学び、自ら立つ生徒(主体的学習態度) 志を高く持ち、自らの意志で「ひと・もの・こと」に積極的にかかわる力を育む。 (2) 互いを認め合い、学び合う生徒(協働的集団づくり) あらゆる集団での学びを通して人間関係形成能力を育成しつつ、他者に対する「おもてなしの心」をはじめとする人権感覚を磨き、集団の一員としての自覚を高めることを通して、人格の完成を目指す。

総合評価		
成果と課題	評価	改善策・向上策
生徒アンケートでは、「話を聴こうとしている」94.0%、「他者と協力して活動」92.0%と、主体的に人や活動に関わる姿が高く評価された。一方、「家庭学習時間の確保」は肯定的評価52.0%、「学習内容を自ら深める」79.0%にとどまり、主体的な学びの継続に課題が見られる。	A b	授業や総合的な学習において、生徒が課題を設定し、考えを発信・振り返る場を意図的に設定する。また、プランニングタイムの時間を有効活用し、学習計画の立案と見直しを継続的に指導し、家庭学習の習慣化を図ることで、主体的に学び続ける力の育成を目指す。
生徒アンケートでは、「差別やいじめを許さない態度」95.0%、「他者と協力して活動」92.0%、「人の話を見て聴く」94.0%と高い評価が得られ、互いを認め合い学び合う集団が形成されている。一方、「自分の考えを発信」78.0%、「家庭学習の主体性」52.0%には伸びしろがある。	A a	学級活動や授業において対話的活動を充実させ、安心して意見を表現できる雰囲気づくりを進める。また、人権学習や協働的課題解決を通して他者理解を深め、集団の一員として主体的に関わろうとする意識の向上を図る。

領域	対象	評価項目	評価の観点	
教育活動	教育課程	○基礎学力の向上を図り、どの生徒にも「わかる授業」の実践	○基礎・基本の定着を図り、学習内容の理解ができる授業がなされていたか。	
		○「総合的な学習の時間」を充実させるためのカリキュラム編成とその実践	○高遠中学校らしさのある「総合的な学習の時間」としてのカリキュラム編成ができたか、また、その特色を生かした実践となったか。	
	学習指導	○生徒が学びたい学習問題や学習課題の設定	○生徒自らがめあてをもち生き生きと取り組む授業づくりができたか。	
		○ICT機器を生かした授業づくり	○授業でICT機器を効果的に活用することができたか。また、生徒がICT機器を使う場面を作れたか。	
	部活動	○高遠中学校部活動運営方針に則った部活動の充実	○部活動運営方針に則り、「ステューデントファースト」で指導をし、生徒にとって満足感のある部活動になったか。	
		○少人数の部活動で生徒を生かす工夫	○部活動の地域展開に向けての準備を行うことができたか。	
	生徒指導	○いじめのない安心安全な学校	○生徒が安心して学校生活を送ることができているか。 ○有事の際に迅速にチームで対応できているか。 ○日頃から職員間で情報交換を活発に行っているか。	
		○不登校・不応適生徒への柔軟な対応と発達障がいへの理解の向上	○不登校生徒、不応適生徒の状況把握と未然防止、発達障がいへの理解、早くて確かな対応がなされたか。	
	学校運営	安全	○災害時の対応や防災訓練の質的向上	○安全指導、避難訓練の実施について、実質的な内容の向上(想定外の幅を広げたり、臨機応変に対応する生徒を育成したり)が図られたか。
			○交通安全にかかわる生徒の意識の向上	○交通安全(歩行、自転車の乗り方、バスの乗車マナー)について、生徒の意識は高まったか。
地域との連携		○外部講師・地域ボランティアの活用推進	○外部講師や地域ボランティアと連携し合い、生徒の教育活動が充実したか。	
		○PTA活動の充実と開かれた学校づくり	○PTA活動、授業参観日、文化祭等への参加者が増えたか。 ○学校の様子を家庭、地域に積極的に発信したか。	

成果と課題	評価	改善策・向上策
生徒アンケートでは「授業内容を理解できている」が85.0%と高く、基礎・基本の定着に向けた授業改善の成果が見られる。一方、保護者アンケートでは「授業がわかりやすい」が69.9%にとどまり、家庭から見た学習理解との間に差があり、理解の可視化に課題が残る。	B b	学習のねらいや到達点を明確にし、振り返りや小テスト等で理解度を確認する場を充実させる。また、ICTや協働的学習を活用し、つまづきへの早期対応を図ることで、誰もが理解を実感できる授業づくりを進める。
生徒アンケートでは「学校らしさのある総合的な学習の時間で学んでいる」が85.0%となり、特色ある題材設定が評価された。また、保護者からも「地域に根差した特色ある教育活動」が96.8%と高評価であった。一方、学びの成果を実感できない生徒もおり、学習の深まりや発信の在り方に課題が残る。	B b	地域資源や人材との関わりをさらに充実させ、生徒が課題を設定し探究する学習過程を明確にする。また、成果を発表・共有する機会を増やし、学びの意義や成長を実感できる総合的な学習の時間となるよう改善を図る。
生徒アンケートでは「話を見て聴く」94.0%、「他者と協力して活動」92.0%と高く、めあてを意識して意欲的に授業へ参加する姿が見られた。一方、「自分の考えを発信」78.0%、「学習計画を立て振り返る」77.0%にとどまり、主体的な学びの深化に課題が残る。	B b	各授業で学習のめあてを明確に示し、自己評価や振り返りを位置付ける。対話的活動や発信の機会を増やすことで、学びへの見通しと達成感を高め、生徒が自ら考え生き生きと取り組む授業づくりを進める。
生徒アンケートでは「授業内容を理解できている」85.0%、「他者と協力して活動」92.0%と高く、ICTを活用した資料提示や協働学習が理解促進に寄与した。一方、「自分の考えを発信」78.0%にとどまり、生徒自身がICTを活用して表現・発信する場面には課題が残る。	A a	ICTを活用した調べ学習や意見共有、成果物作成の場を計画的に設定し、生徒が主体的に使う機会を増やす。また、活用方法の校内共有を進め、ICTが思考の整理や表現の手段として効果的に機能する授業づくりを推進する。
生徒アンケートでは「粘り強く部活動に取り組んでいる」が87.8%、保護者アンケートでも「部活動にやりがいをもって取り組んでいる」が88.9%と高く、生徒主体で満足感のある活動となっている。一方、否定的評価も一定数あり、活動内容や負担感への配慮が今後の課題である。	A b	部活動運営方針を踏まえ、生徒の声を生かした目標設定や活動内容の見直しを行う。また、休養日や活動時間を適切に管理し、心身の健康に配慮した指導を通して、より満足度の高い部活動運営を目指す。
生徒アンケートでは「部活動に粘り強く取り組んでいる」が87.8%、保護者アンケートでも「部活動にやりがいをもって取り組んでいる」が88.9%と高く、現行体制の安定した運営が図られている。一方、地域展開そのものに対する理解や見直しは十分とは言えず、情報共有に課題が残る。	B b	地域展開の目的や進捗状況について、生徒・保護者への丁寧な説明を行うとともに、地域人材や関係団体との連携を段階的に進める。試行的な取組を通して課題を整理し、円滑な移行に向けた体制づくりを進める。
生徒アンケートでは「学校へ行くのが楽しい」86.0%、保護者でも90.3%と高く、生徒が安心して学校生活を送れていることがうかがえる。また「教職員は生徒を理解しようとしている」87.1%と評価された。一方、「いじめ等への対応」は66.7%にとどまり、有事対応や情報共有の見える化に課題がある。	A a	日常的な職員間の情報交換をさらに活発にし、組織的な生徒理解を深めるとともに、有事対応の共通理解と迅速な連携を図る。生徒・保護者への対応方針の周知を進め、安心感と信頼感の高い学校体制づくりを推進する。
生徒アンケートでは「学校へ行くのが楽しい」86.0%、保護者アンケートでも「子どもは楽しく学校に通っている」90.3%と高く、支援の成果が表れている。一方、「教職員はいじめや暴力の未然防止に努めている」66.7%とやや低く、不登校・不応適生徒や発達障がいへの早期対応には課題が残る。	B b	不登校・不応適生徒への観察・面談を定期的に行い、発達障がい理解研修を教職員間で強化する。相談体制を整備し、早期発見・的確な支援を実施することで、全ての生徒が安心して学べる環境づくりを推進する。
生徒アンケートでは「話を見て聴く」94.0%、「他者と協力して活動」92.0%と高く、避難訓練や安全指導での集団行動や協力の力が育まれた。一方、保護者アンケートでは安全・生活指導への評価は81.7%にとどまり、想定外の事態への臨機応変対応や実践力の育成には課題が残る。	B b	避難訓練や安全指導のシナリオを多様化し、想定外の状況や役割を設定して対応力を高める。また、生徒自身による振り返りや指導参加を取り入れ、主体的に安全行動を判断・実践できる力を育成する。
生徒アンケートでは「話を見て聴く」94.0%、「他者と協力して活動」92.0%と高く、集団行動やルール意識の定着が見られ、交通安全への基本的な意識は向上している。一方、個別の自転車乗車やバス利用マナーの遵守状況は課題が残り、意識の均一化が必要である。	B b	登下校指導や学年行事で具体的な場面を設定し、交通ルールやマナーの確認・実践を繰り返す。また、生徒同士での指導や振り返りの機会を増やし、自ら安全を判断・行動できる意識をさらに高める。
保護者アンケートでは「地域に根差した特色ある教育活動を行っている」が96.8%と高く、外部講師や地域ボランティアの活用により生徒の学習や体験活動が充実した。一方、活動への参加機会や生徒自身の主体性にばらつきがあり、全員が等しく効果を楽しんでいない課題がある。	A a	外部講師や地域ボランティアとの連携計画を年間スケジュールに組み込み、全生徒が参加できる機会を確保する。事前学習や振り返りを設定し、生徒の主体的な関わりを促すことで、教育活動の効果をさらに高める。
保護者アンケートでは「学校だよりや学級通信で教育活動の様子を知らせている」が98.9%、「教育方針をわかりやすく伝えている」が91.4%と高く、	A	授業参観や文化祭、PTA活動への参加を促す工夫として、案内方法や開催時間の多様化を図る。また、学校だより、PTA通信、校内掲示などを活用

研 修			家庭・地域への情報発信は十分評価できる。一方、PTA 活動や文化祭等への参加者増加には課題があり、参加の幅をさらに広げる必要がある。	a	して活動内容を発信し、家庭・地域の理解と参加意欲を高める施策を進める。
	○教師の資質向上を図るための職員研修の充実と授業公開	○積極的に研修会に参加したり、授業公開をしたりすることで、資質向上を図ることができたか。	保護者アンケートでは「教職員は生徒をよく理解しようとしている」87.1%、「生徒や保護者の相談に適切に対応している」83.9%と高く、研修や授業公開を通じた指導力向上が成果として現れている。一方、いじめや暴力の未然防止に関する対応は66.7%にとどまり、研修内容の実践定着に課題が残る。	A b	教職員研修や授業公開で得た知見を校内で共有・振り返る仕組みを整備する。また、いじめ防止や ICT 活用等、重点課題に直結した研修を計画的に実施し、授業実践や日常指導に反映させることで資質向上を図る。
	○ICTにかかわる継続的な研修の推進	○ICTにかかわる研修を授業に活かすことができたか。 ○職員・生徒ともに ICT 活用の工夫と向上が見られたか。	生徒アンケートでは「授業内容を理解できている」が85.0%、「他者と協力して活動」92.0%と高く、ICT 活用による授業理解や協働学習の効果が見られる。一方、「自分の考えを発信」78.0%にとどまり、生徒自身が ICT を活用して表現・発信する力には課題がある。	A a	ICT 研修で得た手法を授業に組み込み、生徒が主体的に活用できる活動（調べ学習・プレゼン・共同制作）を増やす。教職員間で活用事例を共有し、授業改善と ICT 活用スキル向上を図ることで、学びの質をさらに高める。